海外フィールドワーク＜オーストラリア＞

AKB Future Project 推進委員会

Australia

○日　程	平成 30 年 10 月 09 日(火)～19 日(金)（11 日間）
○生　徒	４名（４回生）
○研修先	オーストラリア連邦（ニューサウスウェールズ州コフスハーバー）
○目　的	オーストラリアの農場や農業関連施設を訪問し、現地の食料事情や日本との関わりについて調査研究をするとともに、高校生や大学生との意見交換等を通じて、交流を深めお互いの文化を理解・尊重する態度を養い、国際的な視野を広げる。
○内　容	(1)　農業と食料生産に関するフィールドワーク (2)　現地の住民や学生との交流や文化の体験

◇事前研修および準備活動

日程：　9/13、9/19、9/21、9/25、9/28

内容：　行程・研修のねらいの確認、各種手続き、プレゼンテーション作成、交流活動の準備など

◇農業と食料生産に関するフィールドワーク

1. バナナプランテーション見学　コフスハーバーでは傾斜のある地形を活かしたバナナの栽培が盛んで、陽の当たる面積や時間帯など緻密に計算された方法で栽培している。バナナの木一本から何十房ものバナナがなることに参加生徒は驚いていました。

2. ブルーベリー農家視察　水耕栽培を用いてキュウリを育てる方法や、ブルーベリーの実を大きく育てる際の工夫について聞くことができました。また、農業における先行投資の重要性も合わせて知ることができました。

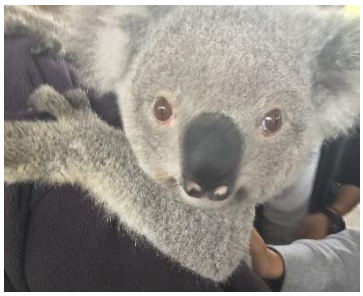
3. シンクロニシティファーム見学　農薬を用いることなく、質の高い野菜などを栽培する方法について聞いてきました。敷地が広いということもあってこまめな衛生管理が欠かせないとのことでした。奥さんは日本人でしたがオーストラリアで長く生活していると、日本語がなかなか出てこないそうです。

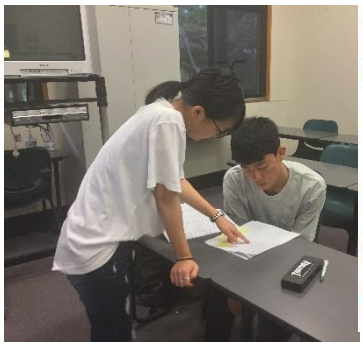
4. マカダミアアナッツ農場・工場視察　世界各地で売られているマカダミアナッツも元はオーストラリアの木が始まりです。農場では農薬を使用せずにミツバチを用いて害虫駆除をするなどさまざまな工夫がされていました。こちらの農家でも先行投資の重要性は語られていました。農

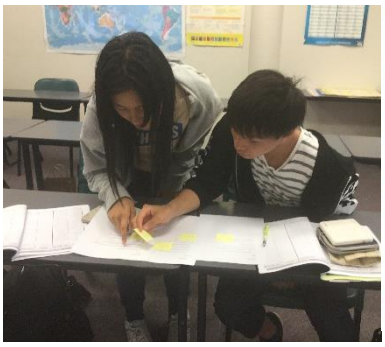
業を安定させるまでに 10 年はかかるとのことでした。

5. ビラボン動物園見学　動物園の見学を通してオーストラリアでしか見られない動物について学びました。コアラの生態やその保護策、またさまざまな動物の歴史や言い伝えなどオーストラリアでこそ知ることのできる内容について理解を深めてきました。

6. ジョン・ポール高校訪問　日本語クラスの高校生と交流を深めてきました。お互いの文化について答えるクイズでは相撲の決まり手やカンガルーの跳ぶ高さなどが問われました。







◇海外フィールドワークに参加した生徒の意見・感想

- コフスハーバーではバナナの栽培が盛んでした。中国人やインド人が広めていったそうです。オーストラリアでのバナナの栽培の歴史は多民族が関わっていることに驚きを覚えました。日本ではバナナを栽培する光景は見られません。何か日本の気候を活かして、オーストラリアのように栽培できないのかと考えさせられました。
- オーストラリアの輸送インフラの老朽化問題の解決策が気になっていたが、フィールドワークを通してオーストラリアは道路、特に高速道路の整備が近年行われ、ほとんどがトラックを使っての輸送になることが分かった。また鉄道はあるがあまり発達しておらず、効率が悪くなるため近年はあまり使われていないそうだ。
- オーストラリア人は、朝がとても早いということ。また、恐れずに自分から相手のことを理解しようとすることがとても大切であるということ。また、一世帯ごとの土地が日本と比べてとても広く、オーストラリアの規模の大きさを感じることができた。
- オーストラリアでは広い土地を利用して、多くの人が小規模な農業を行っていた。